

埼玉県におけるサイクルツーリズムの取組について

埼玉県 県土整備部 県土整備政策課

1. はじめに

本県は、県民1人あたりの自転車保有台数が全国トップクラスであり、自転車関連企業も多く、自転車産業が非常に活発である。また近年、県内においてサイクリング需要が高まっており、本県が実施している県政サポーターアンケートでは、「レジャー・観光利用」、「サイクリング・ポタリング」を主な自転車利用の目的として回答した人の割合が年々増加している。

さらに、県内には利根川沿いを走る日本一長いサイクリングロードや比企丘陵を通るサイクリングロードがあるなど、県民にとって自転車は移動手段やレジャーの楽しみとして身近なものとなっている。

本県の観光を振興するためには、近隣都県からのアクセスの良さと豊かな自然を併せ持つという、本県の優位性を最大限活用していくことが重要である。近年では、近場で観光を楽しむ「マイクロツーリズム」に注目が集まっていることや、SDGsの理念が浸透する中での自然環境保全への関心の高まりなどが、本県観光への追い風となっている。また、その地域ならではの体験ができる観光コンテンツの人気が高まっていることから、本県の優位性と魅力を生かした「体験型観光」の創出を促進していく。

中でも「サイクルツーリズム」の取組は、県内の多くの魅力ある地域資源をつなぎ、県内外のサイクリストや一般観光客に訪れてもらい、満喫していただけるよう、サイクリングルートの設定や環境整備を推進するものである。

2. 埼玉県自転車活用推進計画

本県では、「自転車活用推進法」に基づき、令和2年3月に「埼玉県自転車活用推進計画」を、令和4年7月には「第2次埼玉県自転車活用推進計画」を策定した。これらの計画では、自転車の安全で安心な利活用による環境負荷の軽減、多様な交通手段の確保、健康増進などに係る施策を進めている。

本計画では、基本目標の一つに「サイクルツーリズムの推進による観光立県埼玉の実現」を掲げている。この目標の下、自転車の走行環境や利用者の受入環境、サイクリングルート沿線の魅力づくりなど、サイクリストの期待に応えるホスピタリティを提供し、県内外からの自転車利用者の誘客、県内における観光・地域振興を図ることを目指している（表-1）。

3. 県内のサイクリングルートの設定状況

本県では、平成22年に県内各地のみどころスポットを巡る「自転車みどころスポットを巡るル

表-1 第2次埼玉県自転車活用推進計画（抜粋）

施策	取組	指標
(1) 自転車に関する国際的な大会等の開催・支援	①秩父宮杯埼玉県自転車道路競走大会の開催（スポーツ振興課） ②ツール・ド・フランスさいたまクリテリウムの開催支援（スポーツ振興課）	本県で観光・レジャーなどを 楽しむ人の数 7349万人（2020年） ↓ サイクルツーリズムの 促進などにより 1億6000万人（2026年）
(2) 県内外に向けたサイクルツーリズムの促進	①自転車みどころスポットを巡るルートの連携強化・広報（県土整備政策課・道路環境課） ②自転車活用による県内観光の発掘やPR（観光課） ③サイクルトレインの導入拡大促進（交通政策課）	

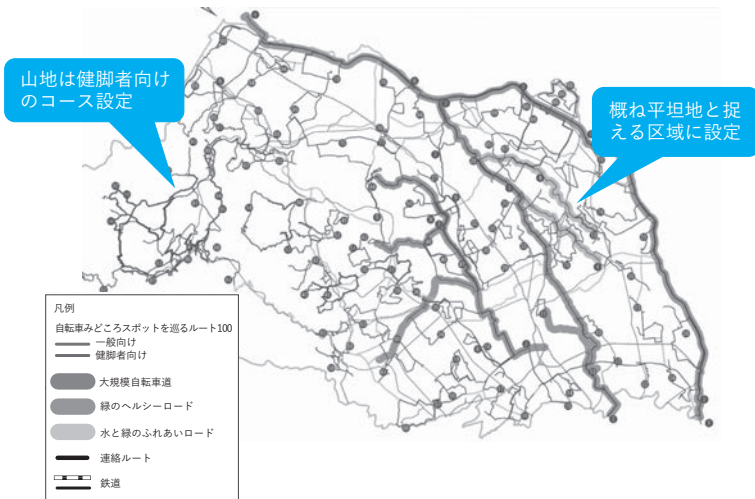


図-1 「自転車みどころスポットを巡るルート100」ルート図

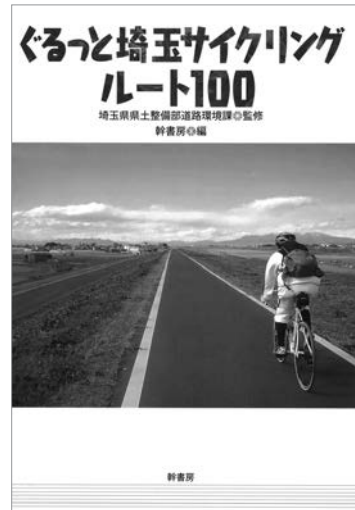


図-2 書籍「ぐるっと埼玉サイクリングルート100」（埼玉県県土整備部道路環境課 監修）

ート100」を設定した（図-1, 2）。また、荒川や利根川をはじめ河川堤防上などに整備された六つの自転車道や、見沼代用水路などの農業用水路の管理用道路等を活用した、田園地帯に広がる緑豊かな自然を体感できる「緑のヘルシーロード」、 「水と緑のふれあいロード」といったサイクリングに適したルートが既に存在していることから、近隣都県のサイクリストによく利用されている。

4. サイクルツーリズム推進モデルルート

「サイクルツーリズム推進モデルルート」とは、先進的なサイクリング環境の整備を目指すモデルルートを設定し、関係者等で構成される協議会において、走行環境整備や受入環境整備、魅力づくり、情報発信を行うなど、官民が連携して世界に誇るサイクリングロードの整備を図るものである。

気軽に地域の魅力を体感できる既存のルートは、サイクリングを楽しむための有効な手段とし

て比較的短い距離のルートが設定されていることに対し、サイクルツーリズム推進モデルルートは、市町村をまたぐ広域的なルートとしてサイクリングによる観光振興を図る、という位置付けである。

本県が推進する広域サイクリングルート「彩くるルート」の、「荒川リバーサイドCity」と「秩父札所・長瀬」の2ルートが、令和7年3月に国土交通省が選定する「サイクルツーリズム推進モデルルート」として、埼玉県内で初めて登録された。豊かな自然や歴史・文化資源を自転車で巡る旅の魅力を全国に発信し、国内外からの観光客誘致と地域活性化を図っていく。

(1) 登録に当たっての道のり

交通や観光分野の学識者、プロサイクリスト、埼玉県サイクリング協会などの有識者、さらには関係機関として、観光事業者や観光関係者、市町村、道路管理者、交通管理者で構成される「サイ

クルーツリズム推進検討会議」（以下、「本会議」という）を立ち上げた。本会議は、モデルルートの設定、モデルルート上の走行環境整備、受入環境整備・情報発信の方法を具体的に検討するもので、令和6年度に3回開催した。ルート登録がされた今後も、フォローアップを継続していく。

(2) 検討した事項

本会議では、道の駅や大規模な公園、鉄道等を経由する周遊ルートを基軸に、地域資源を楽しむ走行環境や拠点・受入環境、情報発信を検討した。ルートの決定に当たっては、自転車特有の道路環境や安全性を重視しつつ、観光振興の方策として最適なルートを選定した。なお、川越地域は市中心地の蔵造の街中がオーバーツーリズムの懸念があることから、郊外の拠点やルートを選定とするよう配慮した。

さらに、Google マップを活用することで紙の地図は製作しないものとし、併せて走行環境整備として、サイクリストがルートに迷わないような路面標示を行うこととした（図-3、4）。



図-3 走行環境整備の取組

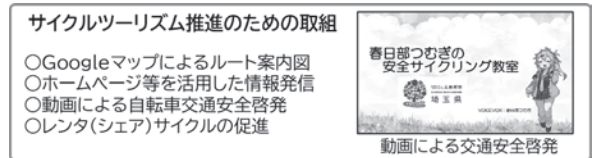


図-4 受入環境整備の取組

5. ルート紹介

(1) 彩くるルート「荒川リバーサイド City」

さいたま市、川越市、蕨市、戸田市の4市と川島町1町を巡る「荒川リバーサイド City」ルートは、総延長約86km。「武蔵野の自然と歴史に触れてみよう！」をテーマに、雄大な荒川の流れや、緑豊かな公園、歴史的な街並みを満喫できるルートである（図-5）。

自転車道として整備された「荒川自転車道（さいたま武蔵丘陵森林公園自転車道）」や「入間川

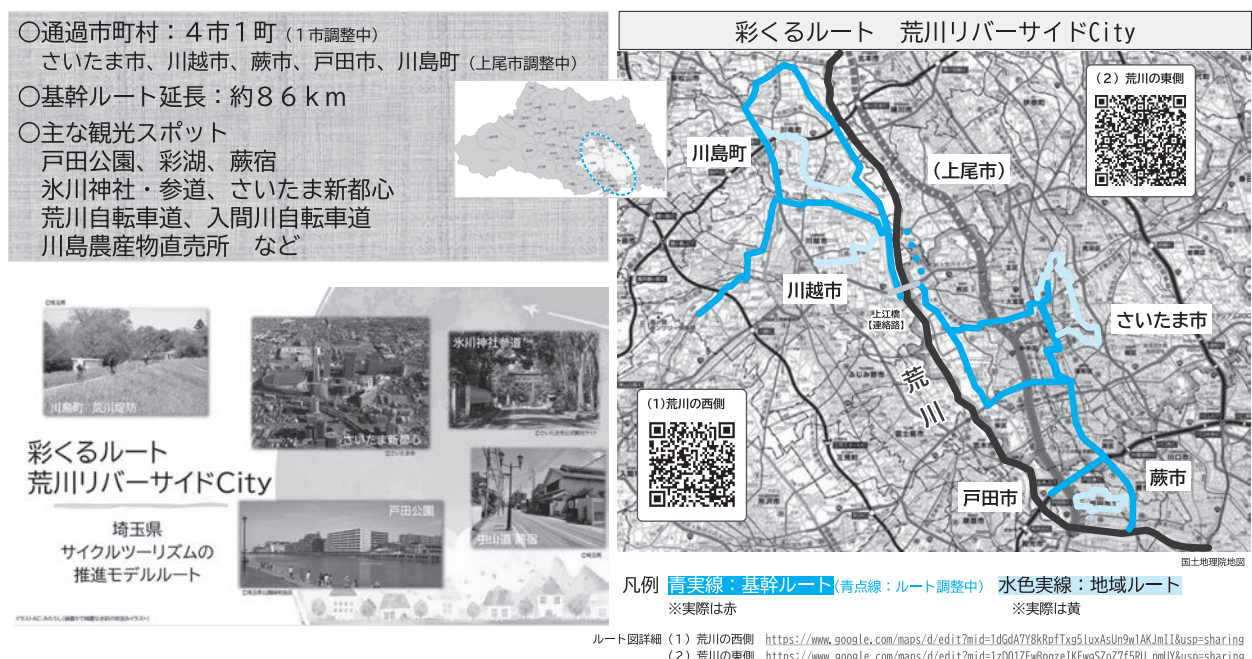


図-5 「荒川リバーサイド City」案内図

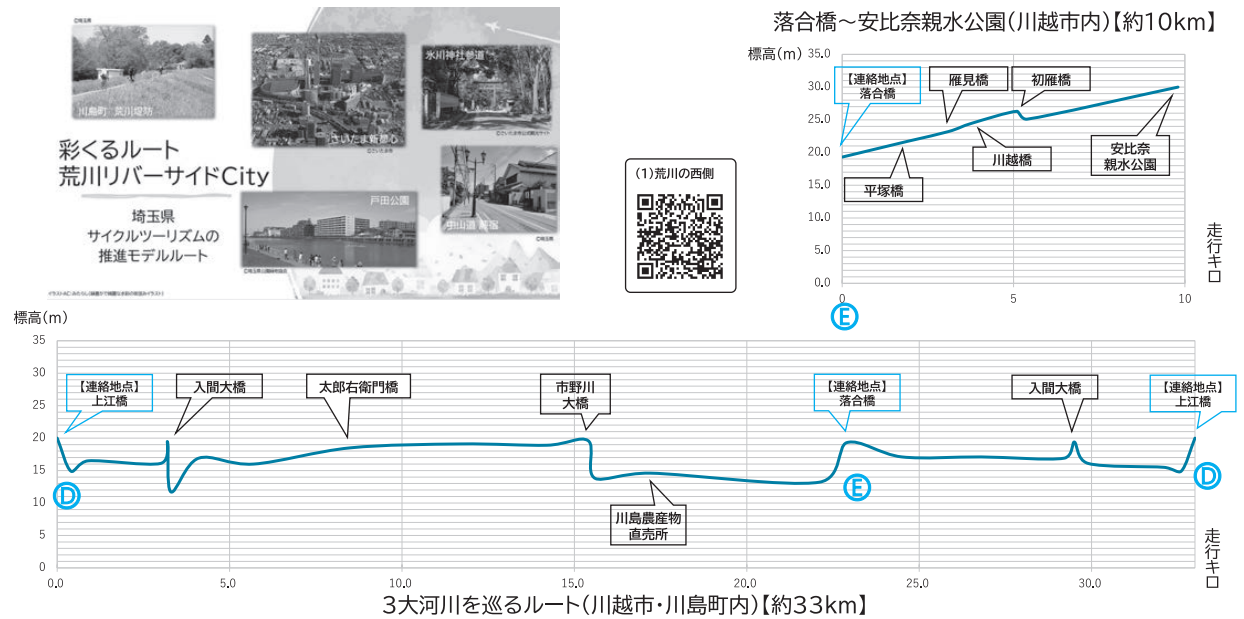
自転車道」が中心となるルートである。信号が少なく、平坦な区間が多いため、本格的なサイクリストはもちろん、サイクリング初心者や家族連れの方が景色をゆっくり楽しむ「ポタリング」にも適している。

主な観光スポットとしては、戸田市の「戸田公園」や荒川の調節池で公園も併設されている「彩湖」、さいたま市大宮区の「氷川神社」とその緑

豊かな「氷川参道」、大型の商業施設もある同大宮区・中央区の「さいたま新都心」などが挙げられる。また、川島町の「農産物直売所」などもあり、広範囲のルート上ではグルメやショッピングも楽しめる（図-6, 7）。

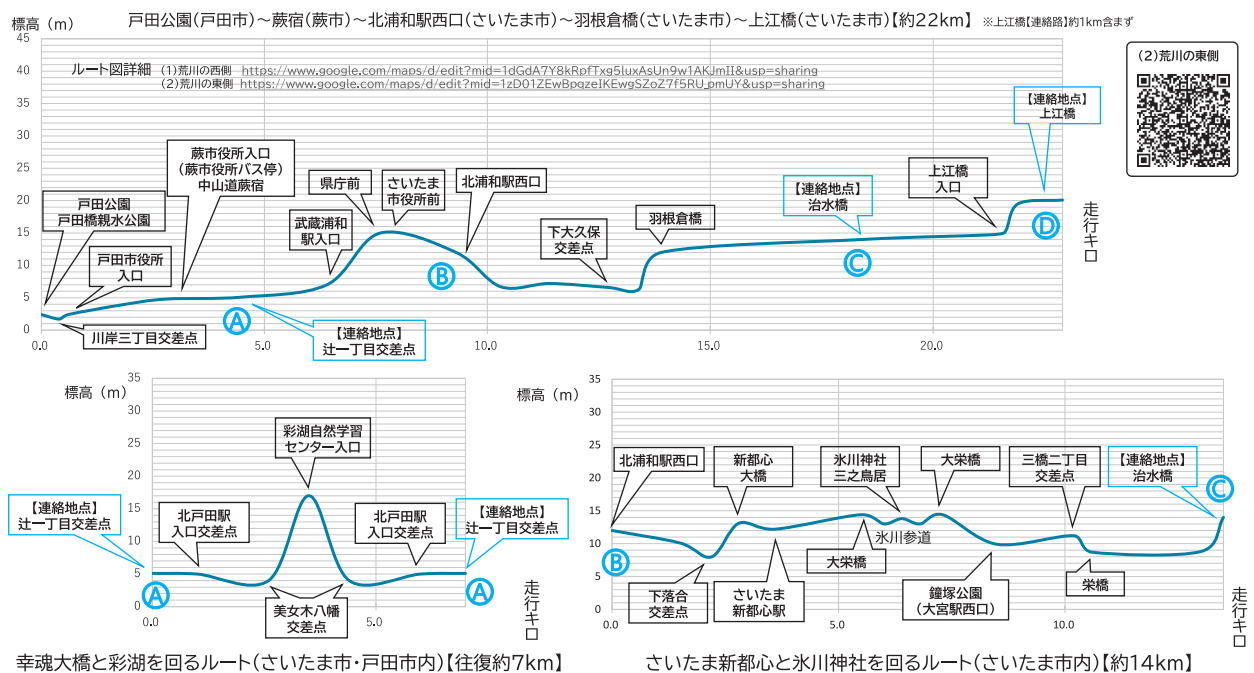
(2) 彩くるルート「秩父札所・長瀬」

秩父市1市と横瀬町、皆野町、長瀬町、小鹿野



ルート図詳細 (1)荒川の西側 <https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1dGdA7Y8kRofTxx5luxAsUn9w1AKJmII&usp=sharing>
 (2)荒川の東側 https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1zD01ZEwBpazelKEwSzoZ7f5RU_pmlUY&usp=sharing

図-6 「荒川リバーサイド City」距離・標高図①荒川の西側



幸魂大橋と彩湖を回るルート(さいたま市・戸田市内)【往復約7km】
 さいたま新都心と氷川神社を回るルート(さいたま市内)【約14km】

図-7 「荒川リバーサイド City」距離・標高図②荒川の東側

町の4町を舞台とする「秩父札所・長瀨」ルートは、総延長約149km。「秩父路の山河と文化を観てんべえ！」(見てみよう、の意)をテーマに、秩父地方の雄大な自然と深い歴史・文化に触れることができるルートである(図-8)。

ルート上の主な観光スポットの中でも一番の魅力は、日本百観音にも数えられる「秩父札所三十四観音霊場」を巡礼できる点である。点在する札

所を自転車で訪れることで、自転車特有の達成感を味わいながら、それぞれの寺社が持つ独特な雰囲気を感じることができる。また、国の名勝・天然記念物に指定されている「長瀨」や、四季折々の花々やアートが楽しめる「秩父ミュージアムパーク」などもルート上に含まれている。

秩父地域は、山々に囲まれた坂道の多いルートであり、アップダウンが多く、本格派ルートとし

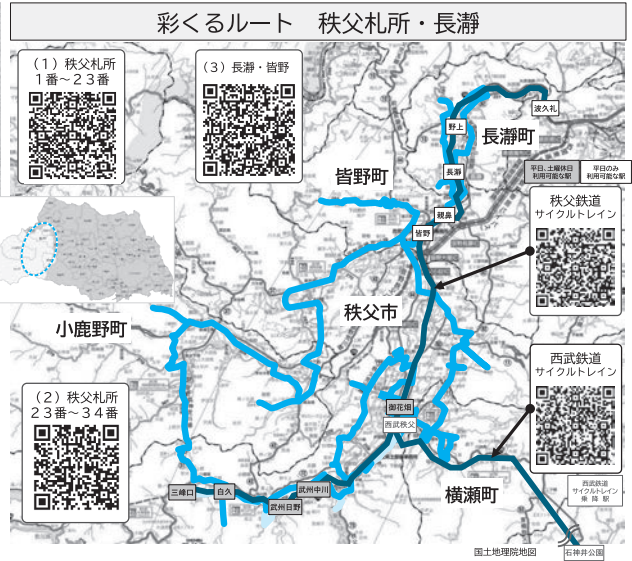
○通過市町村：1市4町
秩父市、横瀬町、皆野町、長瀨町、小鹿野町

○基幹ルート延長：約149km

○秩父鉄道サイクルトレイン(波久礼駅～三峰口駅)
西武鉄道サイクルトレイン(石神井公園駅⇄西武秩父駅)

○主な観光スポット
秩父札所、秩父ミュージアムパーク、長瀨 など

埼玉県 サイクルツーリズムの推進モデルルート



凡例 青実線：基幹ルート 水色実線：地域ルート 紺実線：サイクルトレイン
※実際は赤 ※実際は黄 ※実際は青

【サイクルトレインのご案内】
秩父鉄道サイクルトレイン <https://www.chichibu-railway.co.jp/information/cycletrain.html>
※事前予約不要・特別料金不要 平日：波久礼～三峰口、土曜休日：御花畑～三峰口 間の利用可能駅
西武鉄道サイクルトレイン <https://www.seibu-railway.jp/railway/cycletrain/ikebukuroline/>
※除外日を除く土休日を実施。事前に「西武鉄道サイクルトレインきっぷ(デジタル)」の購入が必要

ルート図詳細
(1) 秩父札所(1番～23番) https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1Ysu2s-o_5Fq2r7NSoDndBMFA1a2Y&usp=sharing
(2) 秩父札所(23番～34番) <https://www.google.com/maps/d/edit?mid=18etw9JXFJBKfSc5Z-u1Z3W19k3Mx20&usp=sharing>
(3) 長瀨・皆野 <https://www.google.com/maps/d/edit?mid=1X4rVts3vrtPYaeU1i4y0QasnXQEFf8&usp=sharing>

図-8 「秩父札所・長瀨」案内図

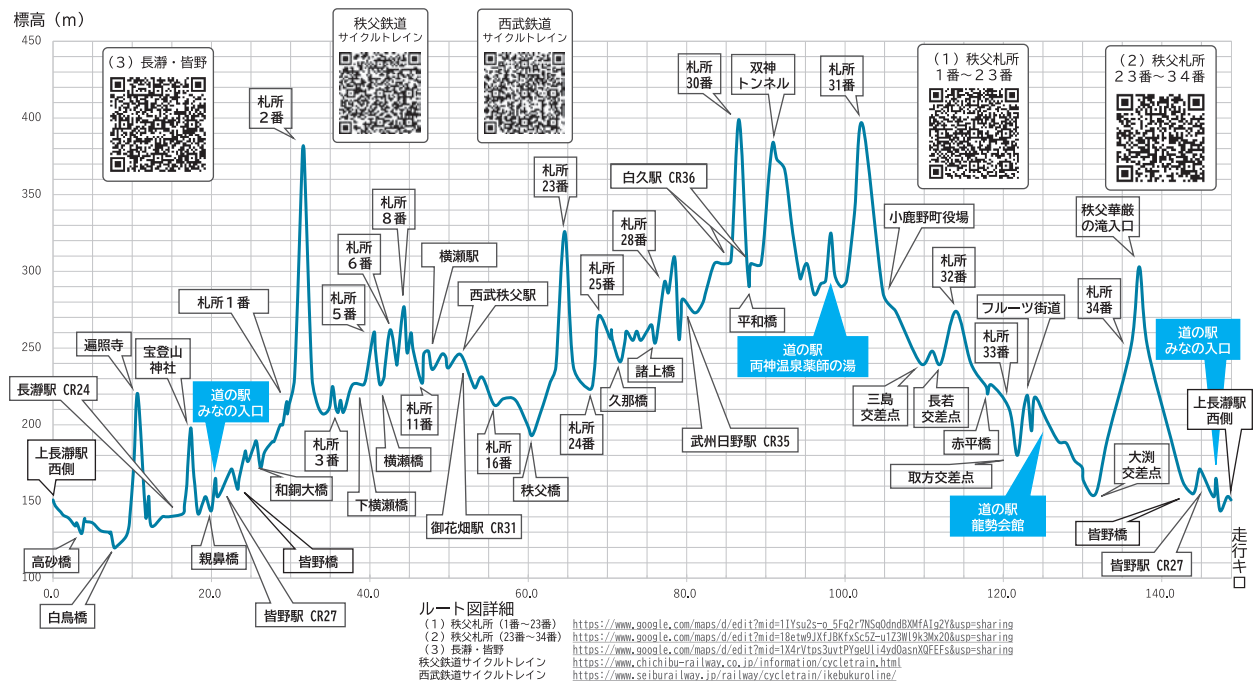


図-9 「秩父札所・長瀨」距離・標高図

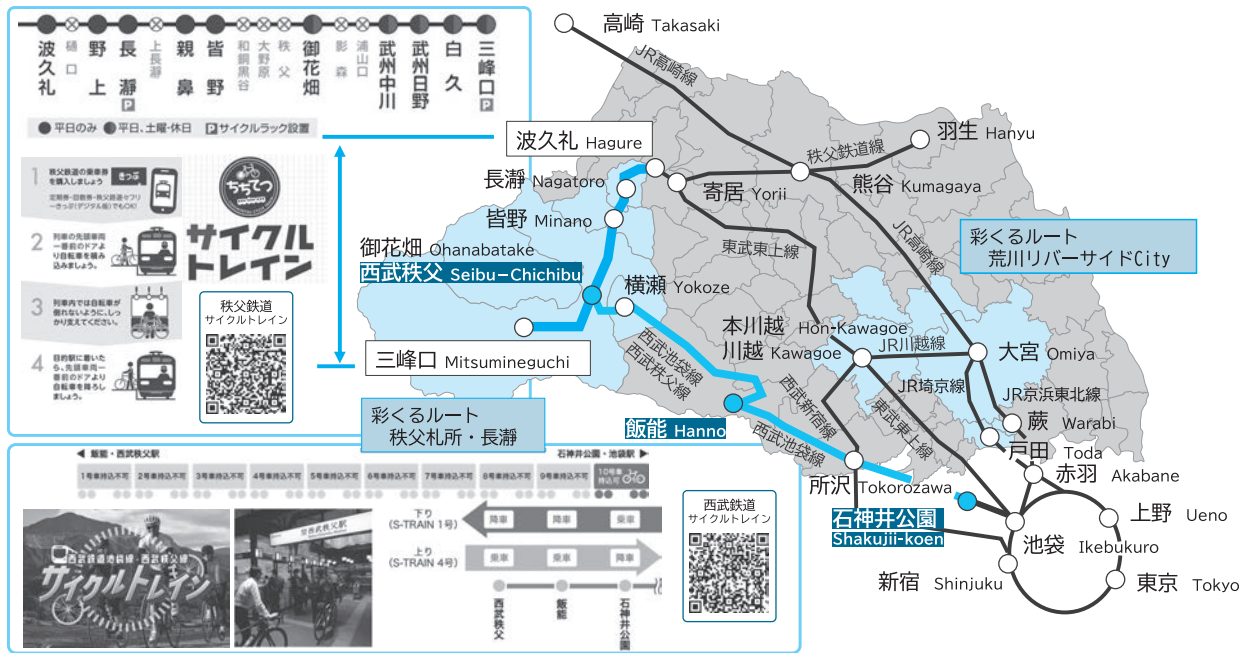


図-10 「サイクルトレイン」アクセスマップ

て脚力と経験が求められる。ヒルクライムや、山々を見渡す絶景ポイントは、スポーツとしてサイクリングを行っている本格派サイクリストにとって大きな魅力となる。一方で、秩父市内や長瀬の街中など札所周辺の比較的平坦なエリアについては初心者でもサイクリングを十分楽しむことが可能である（図-9）。

さらに、秩父鉄道や西武鉄道の「サイクルトレイン」というサービスを活用することにより、自転車を解体することなくそのまま列車内に持ち込めるため、サイクルルートへのアクセス方法の選択肢を広げることができる（図-10）。

6. おわりに

サイクルツーリズムとは、自転車を利用して地域を巡る観光スタイルで、単なる移動手段としてだけでなく、自転車に乗ることを楽しむ、地域を体験する、健康増進など、さまざまな目的で楽しめるものである。

今後は、この二つのサイクルツーリズム推進モデルルートにおいて関係市町や観光事業者と連携し、情報発信や受入環境整備を加速させるとともに、新たなルート設定の検討を行うことで、自転車

を活用した更なる観光振興に努めていく（図-11）。

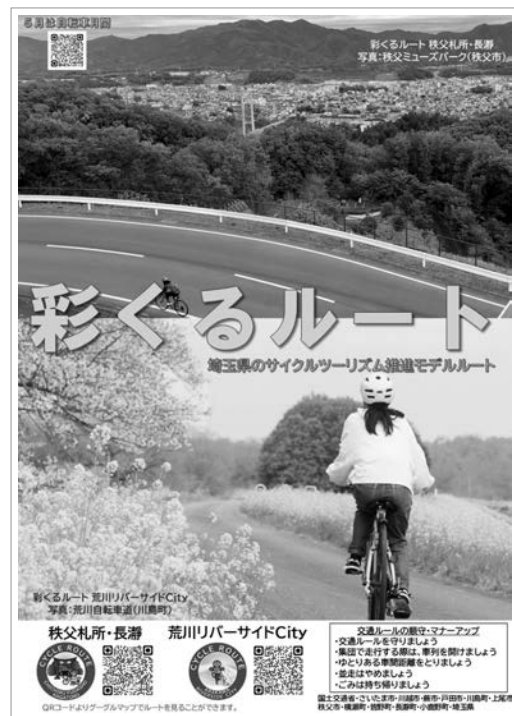


図-11 彩くるルート PR ポスター



埼玉県マスコット「コバトン」「さいたまっち」